

Keiba Global Front Line



競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します

合田 直弘

ニューマーケットを舞台とした「フューチャー・チャンピオンズ・フエスティブアル」が、10月10日と11日の両日にわたって開催された。6つの2歳重賞を集約したこの開催が、タタソールズ・オクトーバー1歳セールのブック1とブック2を隔てる週末で施行されるようになって10年余り。翌年のクラシック候補を目的にできている機会として、筆者が毎年楽しみにしているイベントである。

開催2日目に行われた、G3ゼットランドS(芝10F)を制したピエールボナード(牡2、父キヤメロット)が、今回のこのコラムの主役だ。

2日間で行われた6つの2歳重賞の距離は、5Fから10Fと様々。6重賞の中でも最も距離の長いのが、G3ゼットランドSである。1969年の創設以来長く、ニューマーケットにおけるシーズン最後の開催を舞台に、2歳馬の条件戦として施行されてきたレースだが、フューチャー・チャンピオンズ・フエスティブアルに組み込まれた2015年に準重賞に昇格。その後、2019年にG3に格上げされた。

H・セシルが手掛けた07年の勝ち馬トウワイスオーヴァーが、09年、10年と連覇したG1チャンピオンS(芝9F212Y)を始め、古馬になって10F路線のG1を4勝。16年にはJ・ゴスデンが手掛けた牝

馬のコロナネットが優勝。同馬は5歳時にG1サンクルー大賞(芝2400M)、G1ジャンロマネ賞(芝2000M)を制している。さらに17年のこのレースを制したA・オブライエン厩舎のキユーガーデンスは、3歳秋にG1セントレジャー(芝14F115Y)を制している。

今年のG3ゼットランドSで、オッズ2.5倍の1番人気に推されたのは、A・オブライエン厩舎のピエールボナード。今年7月24日にデビュー。レパーズタウンのメイドン(芝8F)で4着となった後、8月15日にダンドークで行われたメイドン(AW8F)を制し、デビュー2戦目で初勝利をあげていた。主戦のライアン・ムーアが負傷休養のため、クリストフ・スミヨンが手綱をとっての参戦だった。

続く、オッズ3.5倍の2番人気が、ピエールボナードと同厩のエンドースメント(牡2、父ウートンバセット)。前走ティッペリーのメイドン(芝9F)を制しこちらもデビュー2戦目で初勝利を挙げての参戦だった。

8頭立てとなった中、ウェイ・ローダンが騎乗する2番人気のエンドースメントは4番手、1番人気のピエールボナードは6番手を追走。馬群外側に進路をとって追い込んだピエールボナードが残り320mで先頭に立つと、そこから1.1/2馬

身抜けて優勝。エンドースメントが2着だった。

愛国産馬で、G1ナッツソーS(芝9F197Y)勝ち馬サルタニナーの7番仔になるのがピエールボナードだ。当歳秋にゴフス11月セール当歳セクションにて8万ユーロ(当時のレートで約1308万円)でピエールボナードの後、1歳秋にゴフスオービー1歳市場に上場されたところ、28万ユーロ(当時のレートで約4501万円)でクールモアのM・V・マグナー氏に購買された。

ここで重賞初制覇を果たしたピエールボナード。レース後、共同オーナーのひとりであるマイケル・テイバー氏がスミヨン騎手に、「この馬はダービー・タイプか？セントレジャー・タイプか」と尋ねたところ、スミヨンは「ダービー・タイプ」と即答。なぜなら、「私(スミヨン)は、英ダービーを勝つことがないから」と語ったという。

来年6月6日にエプソムダウンズで行われるG1英ダービー(芝12F6Y)へ向けて、ブックメーカー各社が催す前売りで、ピエールボナードはオッズ11.17倍の2.3番人気に浮上することになった。来春の同馬が、どのような競馬を見せるか。日本の競馬ファンの皆様も、ぜひご注目いただきたい。